



ノース15

札幌市東区北十五条東六丁目

田辺 恭子 さん



■運動に参加したきっかけは？
新聞でファミリーハウスのことを知り、事務所を訪ね詳しい話を聞きました。

■オーナーとして嬉しいと感じるときは？

- ・ 患者さんがご家族と一緒に退院するとき
- ・ お部屋が思ったより良かったと言われたとき
- ・ 前に利用した方が「良い所なので」と再度利用してくれたとき

■苦労されるときは？

- ・ 利用日数が変わること
- ・ 清掃や金銭面で苦労がある
- ・ 多人数で利用されるとき

■利用者の方へPRを！

北大病院にも歩いていけるところにあり、交通の便もよい。近くにコンビニや大型スーパーなど滞在環境としては整っています。ファミリーハウスを利用する場合は、予約が必要です。ファミリーハウスのホームページなどでお知らせしています。どうぞご覧ください。



「リラのいえ」紹介

記・NPO法人 北海道ファミリーハウス 小野 佳代

神奈川県立こども医療センターには重い病気の治療のため、県内外から来院して長期にわたり入院している子どもたちがたくさんいます。特定非営利活動法人スマイルオブキッズは、多くの皆さんの支援により建設資金を調達し、神奈川県から提供された医療センター近隣の用地に平成二十年五月に「リラのいえ」が完成しました。全国ネットワーク会議にあわせ見学会が行われました。医療センターを利用する患者さんは九割以上が県外からの受診者で、札幌や稚内、函館などからも心臓病の治療などで入院される方もいます。

■利用者に配慮された施設



「リラのいえ」はNPO法人スマイルオブキッズのボランティアが中心となり、神奈川県立こども医療センターと協力して管理運営している滞在施設です。建物には県内の木材が豊富に使われ、自然の暖かみと明るさが感じられる造りで、八室の部屋があります。各部屋は清潔感がいっぱい、キッチンや浴室も使う方のことを考えて機能的につくられています。なかでも、感染症などで他の人と接触を避ける場合、駐車場から直接宿泊室に入れるなどの配慮がなされています。

■利用者の負担を軽減する努力

どこの団体も運営資金の確保は苦労するところですが、「リラのいえ」では、バザーやコンサートなどの収益金や個人・企業会員の会費、助成金や寄贈品などを活用しています。その結果、一泊千五百円の低料金で利用者の負担を軽減しています。



■利用者を支えるボランティア

自宅を離れて入院する子どもたちを、いつもそばにいて面倒を見られることは心強いものがあります。また、同じ境遇の親たちがここで出会い、悩みを打ち明け互いに支え合うのもハウスの役割と感じます。このような家族を支えるボランティアが多数活躍されました。「リラのいえ」を支えるボランティアの八割は、午前九時から午後六時まで交代で運営にあたっています。夜間は、当直者を配置し、二十四時間安心サポートを提供しています。

■施設運営の基本方針

- ① 患者と家族の立場に立つて運営する
- ② 負担の少ない安い利用料で運営する
- ③ 安全・衛生・快適な施設を提供する
- ④ 個々のプライバシーを大切にす
- ⑤ 滞在する家族同士が支え合える場所を提供する



■「リラのいえ」

所在地・横浜市南区六ツ川四丁目一―二四の二
医療施設・神奈川県立こども医療センター（徒歩五分）
部屋数・八室（バス、トイレ、冷房、TV、冷蔵庫等）
利用料金・付添家族一人千五百円（二人目から追加有り）
問い合わせ先・（〇四五）八二四局六〇一四
ホームページ・<http://smileofkids.jp/>